

《コース専門教育科目 コース専門基礎科目》

科目名	幼児理解				
担当者氏名	大森 彰、中村 哲也				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択必修	開講年次・開講期	3年・春期

《授業の概要》

子どもを理解するうえで、大切なことは何か、どのような関わりが必要かを考察する。幼児・児童を理解するため、子どもの問題を保育者・教師間で共有するため、あるいは自己洞察を深めるために、事例研究を行うことは有効である。資料とするものは事例文献と、保育実習・ボランティア活動などでの皆さん自身の体験である。記述すること、討議することを通して保育士・教師になることの喜び、誇りが生まれることを期待する。

《授業の到達目標》

本講義では、「幼児を理解するとはどういうことか」を追求しその具体的なたてを学んでいく。子どもたちのことばにならない声を聴き取り、つないでいく。子どもたちさまざまな場面での自分と子どもの姿を通して、自分の体験を振り返り、一人一人の特性に応じた教育を進める視点を身に付ける。カウンセリングマインドを持って接する子ども理解の手法を身につける。

《成績評価の方法》

- (1) 平常点(受講態度など) 20%
- (2) 授業のテーマに即した発表 40%
- (3) 期末レポートテスト 40%

《テキスト》

なし(資料プリントは、その都度配布する)

《参考図書》

- ・幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」文部科学省
- ・鯨岡峻「エピソード記述入門・実践と質的研究のために」東京大学出版会

《授業時間外学習》

- ・自分と子どもとの関わりをよく思いだし、カウンセリングマインドについての考察を深める。そのことをもとに、エピソードにまとめる。各自の発表について話し合い、自分の考えをまとめることは復習となる。
- ・日頃から、子どもとの体験活動に興味や関心を持ち、自己の活動も含めて客観的に見つけ文章記述する力を養う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の進め方について ・ 子どもを理解するとは・
2	子どもを観る視点	子どもの表情の変化に気づく教師
3	子どもを捉える客観性と主観性	生活背景を知る 多様な側面から観る
4	環境構成と子ども理解	幼児教育における環境とは
5	実践を通して支援の在り方	映像を通して、幼児への支援について
6	子ども理解とコミュニケーション	子どもを信じることは(傾聴、受容、共感)
7	子どもを勇気づけるコミュニケーション	「ほめること」と「共感」について
8	カウンセリングマインドについて	子どもを観る視点を問う(ポジティブとネガティブ・リフレーミング)
9	特別支援教育と幼児理解	支援を要する子どもへの支援の在り方
10	ことばで表現する	エピソードを記述する意義とその方法
11	グループワーク	事例講読と討議 (グループで背景と事例)
12	グループワーク	事例講読と討議 (グループで事例と考察)
13	全体協議	エピソードの発表・検討討議
14	全体協議	エピソードの発表・検討討議
15	まとめ	子どもを理解と自己理解